

社会的課題解決のための環境整備に向けて

IPTVフォーラム

理事

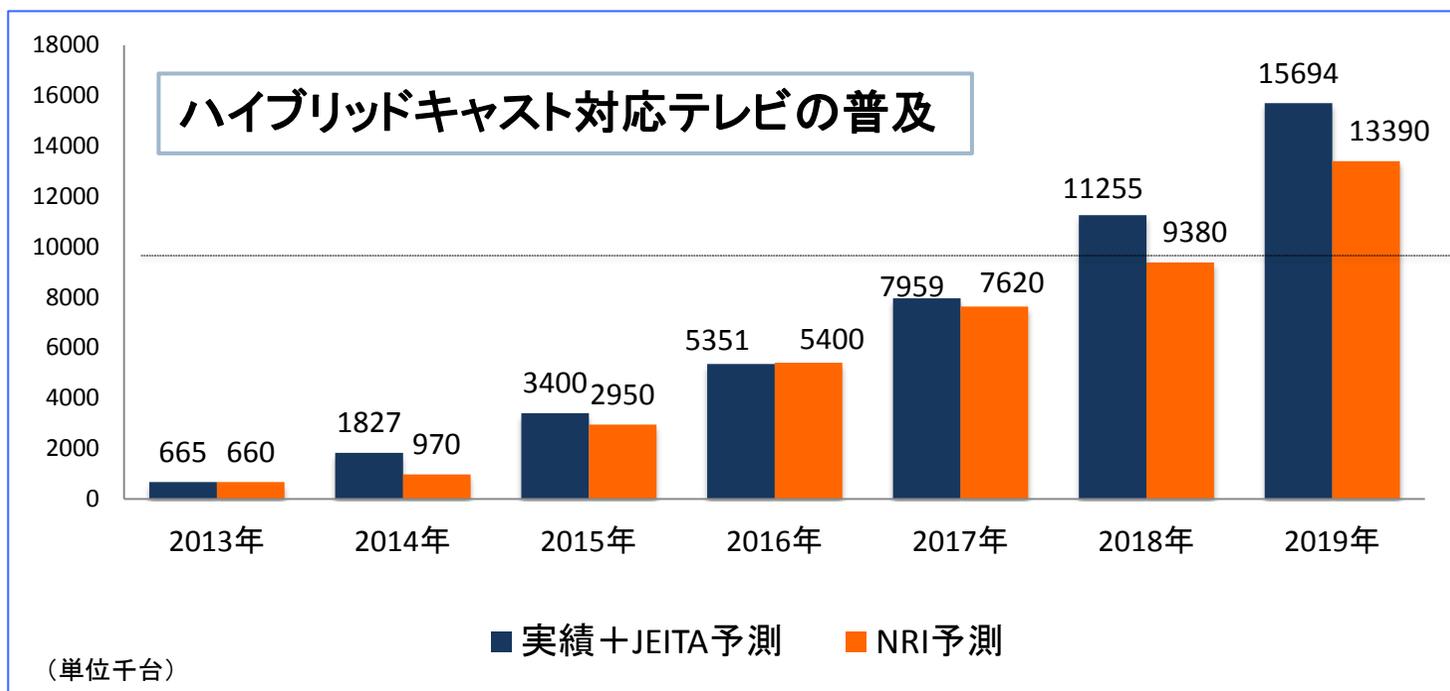
福井省三

ハイブリッドキャスト

現状はどうなっているのか？



ハイブリッドキャスト対応テレビの普及状況



課題

ハイブリットキャスト等の放送通信連携サービスが、収益拡大につながっておらず、継続的に全国に利用できる環境が構築されていない

ハイブリッドキャスト活用

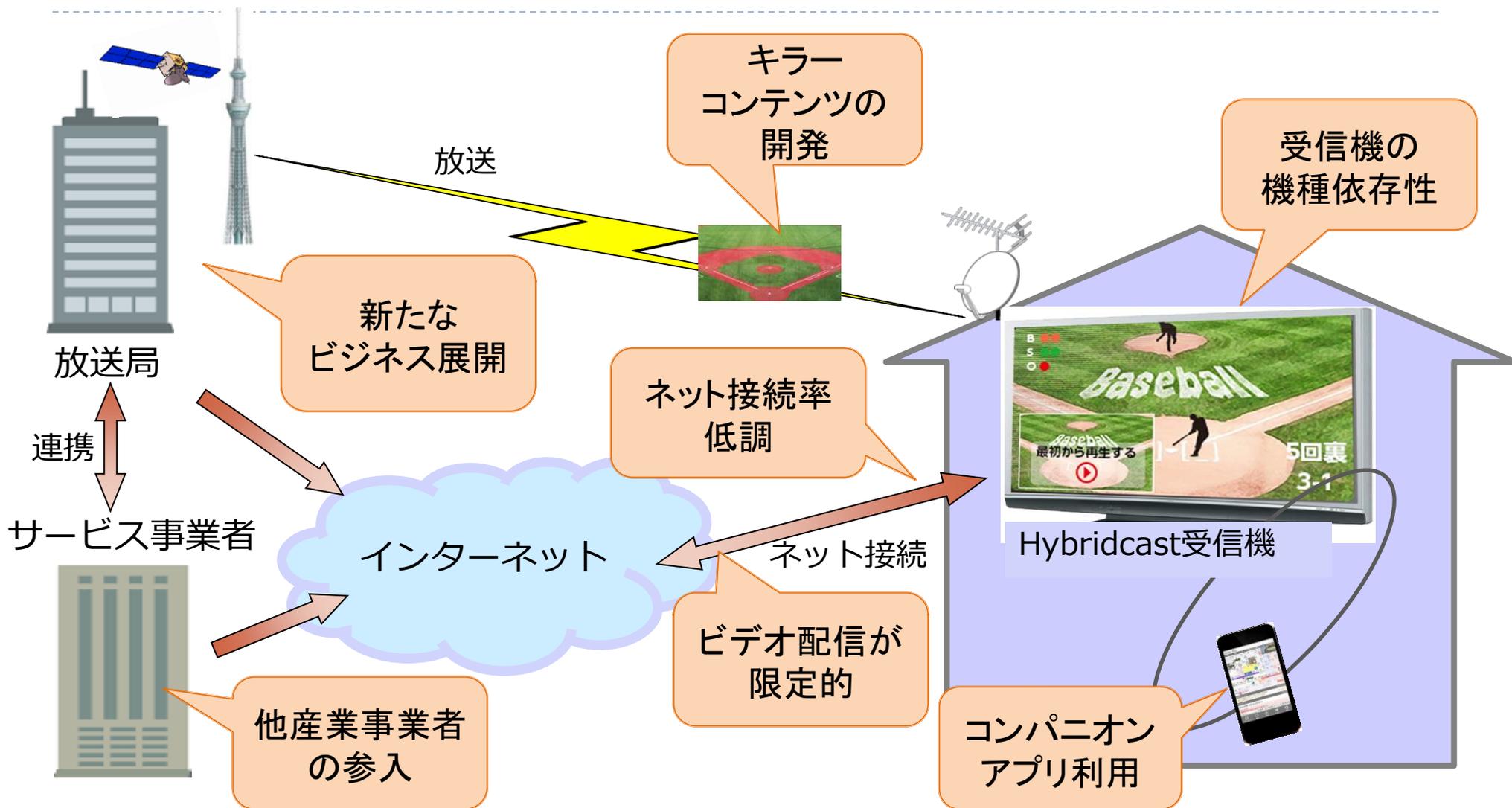
NHK 「あさいち」 視聴者による投票シーン



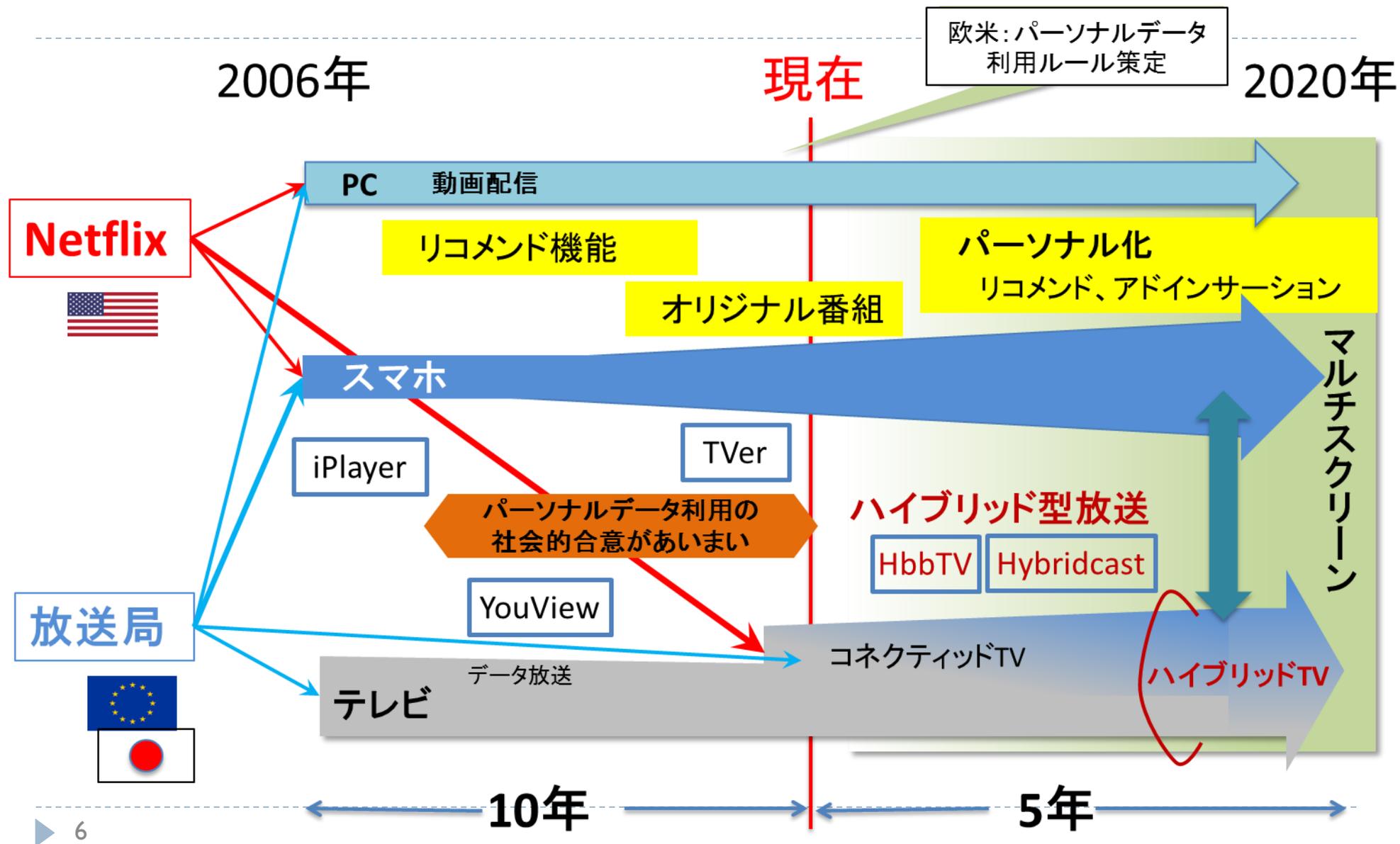
2月2日の放送には、9万人の視聴者が参加した。(映像提供 日本放送協会)

(データ放送とワンセグを含む)

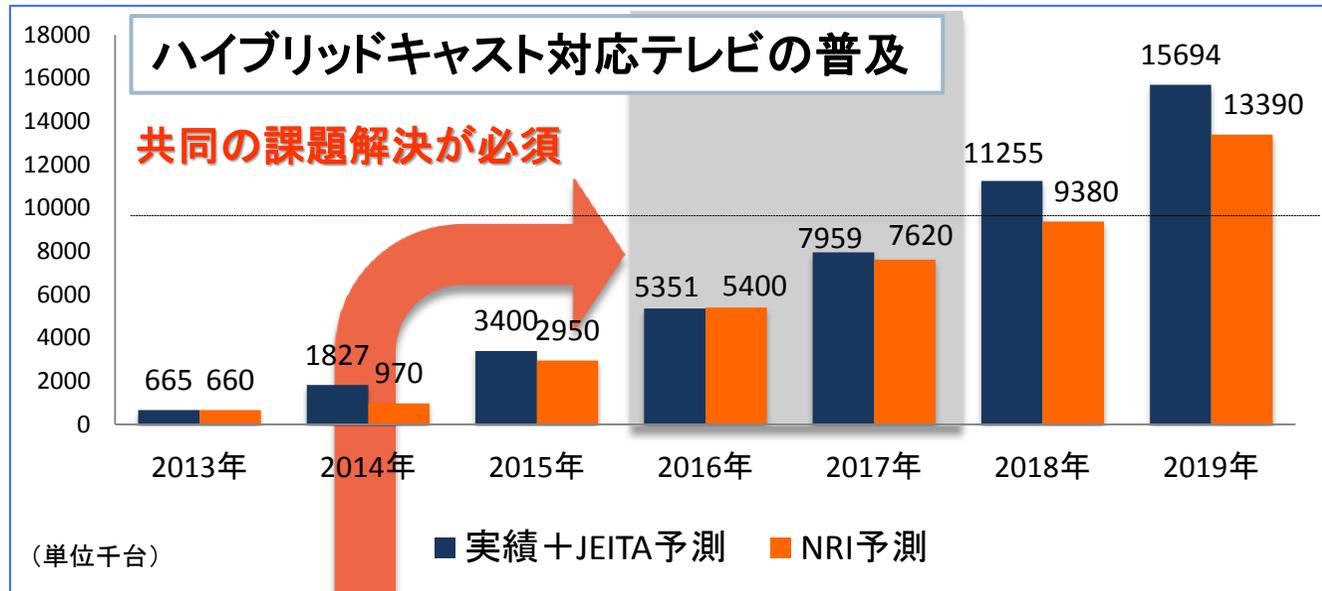
ハイブリッドキャスト：現在の課題



世界の融合サービスの潮流



スマートテレビを取り巻く現状



課題

ハイブリットキャスト等の放送通信連携サービスが、収益拡大につながっておらず、継続的に全国に利用できる環境が構築されていない

主な要因

視聴者の認知が広まっていないこと

サービスは研究開発の段階で、対応番組が少ない。モバイル連携アプリがメーカーごとに異なっており、扱いにくい。そのため、マルチスクリーン化が未完である。

マネタイズができていないこと

データ放送の延長のまま、本格的なビジネス設計がなされていない。他産業・分野との連携などによる収益の拡大につながっていない。

コンテンツ制作の負担が大きいこと

アプリ開発者にとって、動作確認等の検証の負担が大きい。

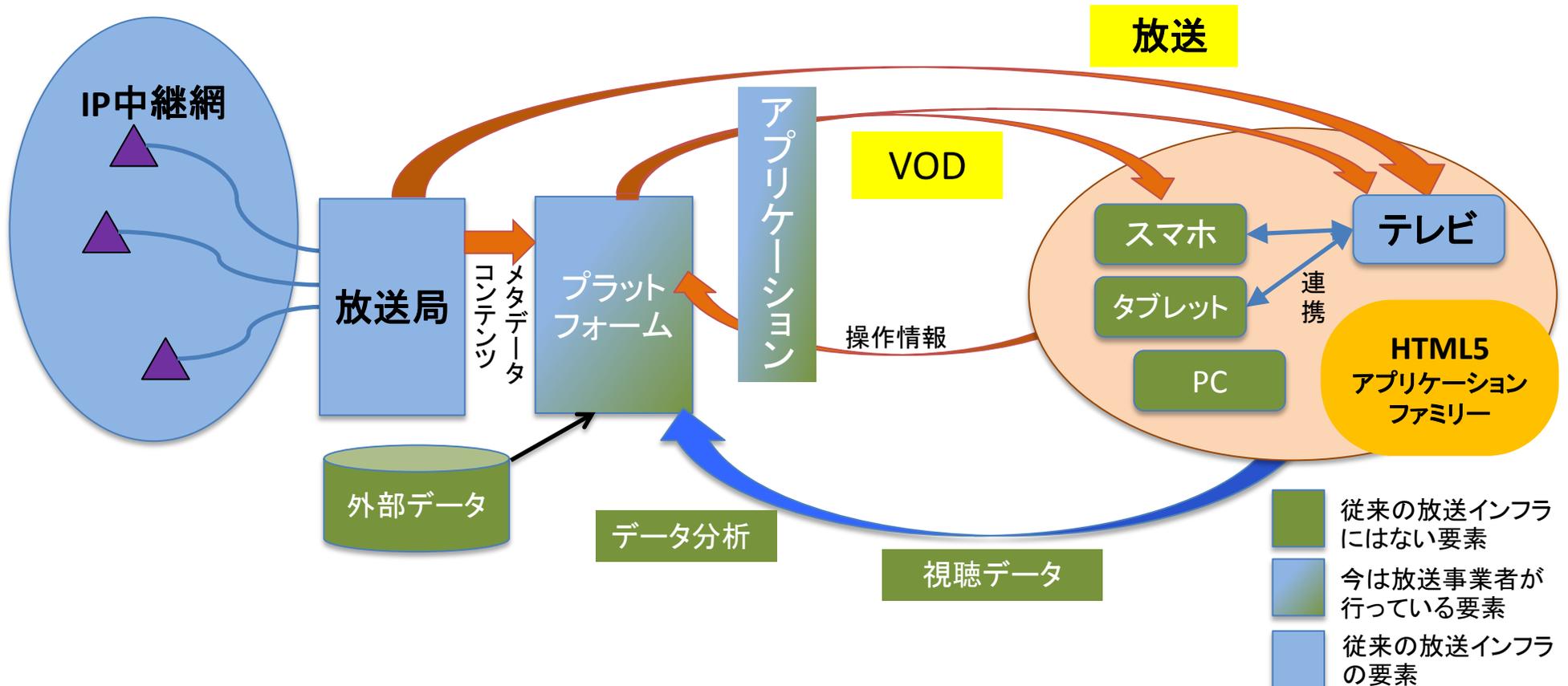
ハイブリッドキャスト

IPTVフォーラムの取り組みとは？



新しい放送サービスの方向性

- ネット機能によって、ユーザーの視聴スタイルは多様化し、変化は止まらない
- 放送の安心安全の性質を担保しつつ、急速に進展するネットの機能を活用すべき
- 新しい放送サービスは、ネットインフラの活用によって強化される



新放送サービスは、“地域格差”を生む可能性はないのか。地方局はついていけるか。

放送とWebの融合 (HTML5の標準化)

ハイブリッドキャストが、Webと同じブラウザ (HTML5) を採用 (2013年) したことで、消費者が、いつでもどこでも、PC、モバイル、テレビのアプリで、コンテンツを自由に選べる時代に入ってきた。

Web (PC、モバイル)

HTML



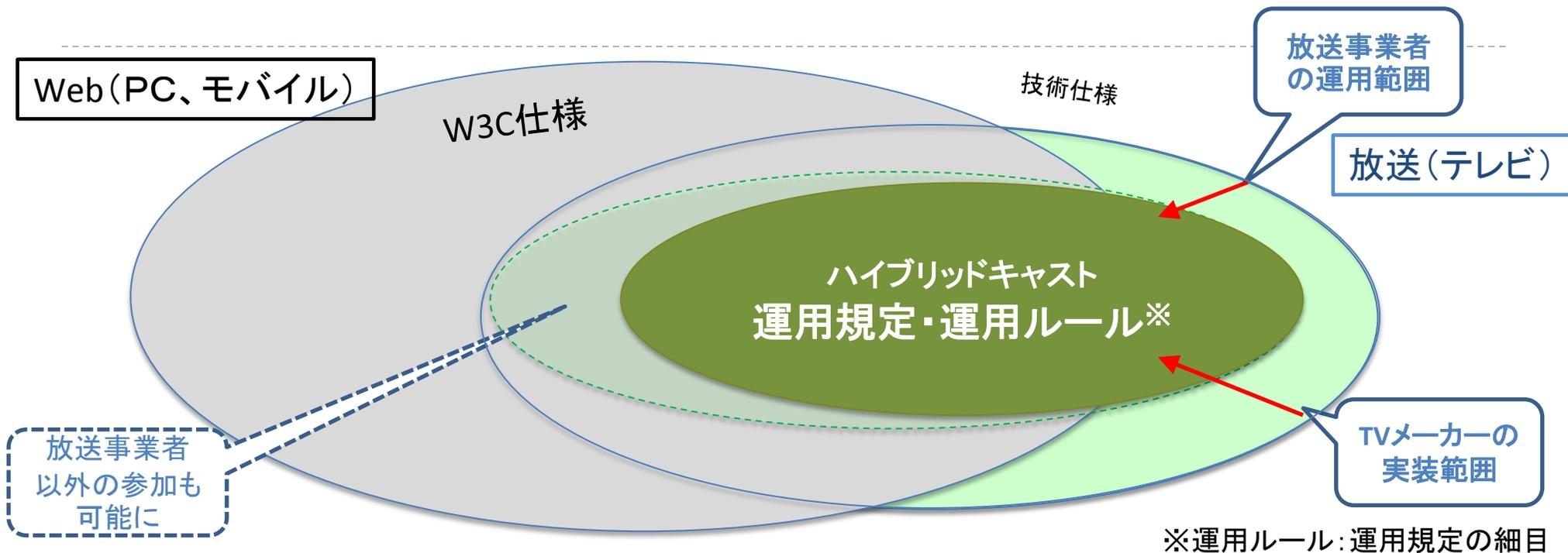
HTML5
(Webの国際標準)

放送 (テレビ)

ハイブリッドキャストが
HTML5 (技術仕様) を採用

データ放送
(BML)

Webの進化に対応することが重要



Web企業は1社単位で迅速に経営判断 ⇔ 放送は共同して課題の解決を図ることが必要

- ハイブリッドキャストのサービス拡大には、放送事業者(サービス事業者)と端末メーカ(TVメーカー)が、サービス実施に必要な仕様の範囲を運用規定・運用ルールとして定めることが不可欠。
- IPTVフォーラムは、その実行を担保し、管理する。
- Web技術の進化に合わせて、技術仕様と運用規定・運用ルールを拡張していくことが重要になる。(技術仕様は放送事業者以外の参加も可能にしているが、運用ルールは未定である。)

IPTVフォーラムの現在の取り組み

- ハイブリッドキャストの基本的な技術仕様は、2013年に策定。
- ハイブリッドキャストの普及展開を促すために、必要となる運用ルールを広げている。

モバイルとの連係を共通化する運用ルール(技術検証中)

アプリ開発者の制作環境支援(開発者セミナーの開催)

映像配信方式仕様(MPEG-DASH)の運用ルールの共通化



ハイブリッドキャスト

社会的課題解決に向けた環境整備



社会的課題解決に必要なカギは？

①放送の強み

良質で信頼される情報
端末の普及・使い易さ

世代を超えた
視聴者の利用

②消費者保護のルール化

視聴データ等の
利活用の促進

・地域活性化
・高齢化社会における社会インフラ
・国際競争力強化

③新たな収入確保

新たなビジネス
(ターゲット広告、リコメンド)

単なるインターネット広告ではなく、
放送が他の産業にとって新しい広告価値をもつ必要
がある。

他産業にとって
オープンな環境

発信基盤の高
度化・効率化

④共同化・共通 化、人材育成

グローバル化への対応
地方情報の発信基盤の効率化
(IPクラウド、制作人材育成、多言語)

ハイブリッドキャスト

今後推進すべき取り組みとは？



放送通信連携サービスの普及展開に向けて

1 世代を超え、幅広い視聴者のためのサービス環境の実現

- ・モバイル端末との関係による視聴者にわかりやすいサービス環境

(例) 視聴者が操作しやすいアプリ提供

- ・新たなサービス環境の構築

(例) チャンネル横断サービスを可能とする運用規定・運用ルールの整備

2 IoT時代を見据え、「安心・安全」と「信用・信頼」のルールを整備

- ・青少年に有害なコンテンツやペアレンタルコントロール等のガイドライン

- ・災害時における緊急放送のルール

- ・視聴データ等のデータ取得・管理・第3者提供等のルール

3 4K/8K+アプリケーションの新サービス創出へ向けてオープンな開発環境と新しいサービスのロジスティックスを整備

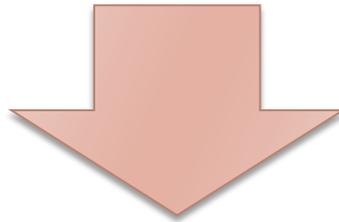
- ・アプリ開発者の育成とコンテンツ動作試験環境の整備

- ・マルチスクリーン向けの運用互換性の確保、テストセンターなど

- ・映像処理の最適化

新たな放送サービスの創出に向けて

- 視聴者の安全安心の確保に十分な配慮が必要であること
- 放送事業者、メーカー、他産業が相互に連携することが必要であること



官民が一体となって推進する体制を構築し、実証事業等を通じて視聴者の参画も得ながら進めていくことが必要

2020年の放送の課題は？

新しい放送サービスのビジネスモデルの実施にあたって

- ユーザとの信頼に基づくリテラシーの確立。
- 市場の変化のスピードに負けない柔軟なアプローチ。
- 事業者を「競争と協調」へ導く。
- 放送とWebの新しい秩序。 民間の自主規制が重要になる。

ご静聴ありがとうございました

